



スポーツと研究をつなぐ人になる。



GRADUATE SCHOOL OF SPORT AND EXERCISE SCIENCES
OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES

大阪体育大学大学院

スポーツ科学研究科

博士（前期・後期）課程

夜間開講の科目は
オンライン
遠隔授業で実施

昼夜と夜間の開講科目は
隔年に入れ替え

社会人のための
リカレント教育
支援制度が充実

本学独自の
昼夜開講制

大学院 研究科長

浜田 拓 [HAMADA Taku]

専門分野：スポーツ生理学

学 位：博士（人間・環境学） 京都大学

主な業績：

Brain and muscle adaptation to high-fat diets and exercise: Metabolic transporters, enzymes and substrates in the rat cortex and muscle. Brain research, 2020.

Acute exercise increases brain region-specific expression of MCT1, MCT2, MCT4, GLUT1, and COX IV proteins. J. Appl. Physiol, 2014.

Possible involvement of AMPK in acute exercise-induced expression of monocarboxylate transporters MCT1 and MCT4 mRNA in fast-twitch skeletal muscle. Metabolism, 2013.

大学院 担当授業：

運動生化学特論、運動生化学特講

「広い視野」「豊かな感性」 「発想力」を持って探究を

本学大学院は、博士前期課程では、高度なスポーツ科学の知識を持ち実践的な指導を行える専門家の養成を、博士後期課程では、高度な専門知識に裏打ちされた斬新な研究を行う研究者の養成を目的としています。

研究教育体制は、文化・社会科学領域、身体運動・コーチ科学領域、健康・医科学領域の3つの専門領域を基盤とし、それに基づき、さらに5領域（スポーツ文化、競技スポーツ、健康スポーツ、学校体育、レジャー・レクリエーション）と11学問分野（保健・体育科教育学、スポーツ史・哲学、スポーツ社会学、スポーツマネジメント、スポーツ心理学、アダプテッド・スポーツ、バイオメカニクス、教授学、スポーツ生理学、スポーツ医学、スポーツ栄養学）の組み合わせにより、スポーツ科学の研究・教育に対する多様なニーズに応えられるように編成されています。

また、保健・体育分野とスポーツマネジメント分野においては、現役の保健体育教員や社会人に対応したスポーツ科学実践プログラムを開設しており、リカレント教育も推進しています。

このような研究教育体制の下で、スポーツ科学の研究を通じて、体育教育や運動・スポーツによる健康・生きがいづくり、スポーツマネジメント、競技力の向上などの分野に貢献できる人材と、高度化・グローバル化するスポーツ科学の発展に貢献できる研究者を養成します。

大学院生の皆様には、スポーツの持つ可能性を「広い視野」「豊かな感性」「発想力」を持って探究し、創造性に富んだ研究に挑戦してほしいと思います。

学位授与

博士後期課程に3年以上在学し、10単位以上を修得かつ必要な研究指導を受け、博士論文の審査に合格した者には、博士（スポーツ科学）が授与されます。

博士前期課程に2年以上在学し、30単位以上を修得かつ必要な研究指導を受け、修士論文または特定の課題についての研究成果の審査に合格した者には、修士（スポーツ科学）が授与されます。

資格

博士前期課程では、教育課程免許法の定める所定の単位を修得すると、中学校・高等学校教諭専修免許状（保健体育）が取得できます。但し、すでに中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）を取得している方に限ります。

奨学金制度

1. 大阪体育大学大学院研究奨学金制度

本学独自の給付型奨学金制度です。

博士前期課程：各年次5名で、1年間給付します。原則として一般選抜A日程で3名、一般選抜B日程で2名を出願時に募集します。

博士後期課程：各年次3名で、3年間給付します。一般選抜A日程のみの募集とするが、A日程で3名に満たない場合は、一般選抜B日程で残りの枠を追加募集します。

2. 日本学生支援機構

貸与型の奨学金制度です。貸与額は博士前期課程5万円または8万8千円、博士後期課程は8万または12万2千円を貸与することができます。

3. その他の奨学金

各種財団の奨学金制度がありますので、随時案内しています。外部団体の奨学金のため、競争率は高いですが、例年、数名の方が採択されています。

より科学的に。より実践的に。より高度に。よりプロフェッショナルに。

教育の目標

本学大学院スポーツ科学研究科は、高度なスポーツ科学の知識を持ち実践的な指導を行える専門家と、高度な専門知識に裏打ちされた斬新な研究を行う研究者を養成します。

博士前期課程

学部における体育・スポーツの教育を基盤に、スポーツ科学の研究を通じて、体育教育や運動、スポーツによる健康づくり、生きがいづくり、スポーツマネジメント、スポーツ競技力の向上などに高度で専門的な知識、技能を身につけた高度専門職業人と研究者を養成します。

博士後期課程

博士の学位を取得して、高度化する体育・スポーツ科学の発展に貢献できる研究者を養成します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院における教育課程編成の方針

- (1) 大学院スポーツ科学研究科は、スポーツ科学専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成する。
- (2) 大学院スポーツ科学研究科博士前期課程は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度な専門知識及び能力を修得させるとともに、当該の専攻分野に関連する分野の基礎的教養を涵養するように適切に配慮する。
- (3) 大学院スポーツ科学研究科博士後期課程は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する諸課題を解決するために自立して研究を計画・実行・推進するための高度な専門知識及び能力を修得させる。
- (4) 大学院スポーツ科学研究科は、5領域（スポーツ文化領域、競技スポーツ領域、健康スポーツ領域、学校体育領域、レジャー・レクリエーション領域）と10学問分野（スポーツ史・哲学、スポーツ社会学、スポーツマネジメント、スポーツ心理学、バイオメカニクス、教授学、スポーツ生理学、スポーツ医学、スポーツ栄養学、アダプテッド・スポーツ）を組み合わせ、スポーツ科学の研究・教育の多様なニーズに応える。

大学院における教育課程実施の方針

- (1) 大学院スポーツ科学研究科は、専門性の一層の向上を図り幅広い学識を涵養するため、研究領域 × 学問分野表に基づく授業科目を充実させ、多様な授業科目の履修から研究指導へ有機的につながる体系的な教育を行う。また、本研究科の「学位授与の方針」に定めた修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応を示し、それら諸能力等を修得するプロセスを履修プロセス概念図で示す。
- (2) 大学院スポーツ科学研究科博士前期課程は、学生の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、インターンシップなどの授業時間外の多様な学修研究の機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させる。
- (3) 大学院スポーツ科学研究科博士後期課程は、学生の活発な研究活動を促進する立場から、海外研究インターンシップなどの機会を通じ、国際的な見地に立った研究活動に積極的に挑戦させる。
- (4) 大学院スポーツ科学研究科は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度を目安として採点する。
- (5) 大学院スポーツ科学研究科は、博士前期課程及び博士後期課程の学位論文審査体制を充実させ、厳格な審査を行う。
- (6) 大学院スポーツ科学研究科は、博士前期課程スポーツ科学実践プログラム受講者の特定の課題についての研究成果の審査体制を充実させ、厳格な審査を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- (1) 博士後期課程にあつては、研究科の定める期間在学して、研究科の教育と研究の理念や目的に沿った研究指導を受け、かつ所定年限内に研究科が行う博士論文の審査及び試験に合格し、課程を修了することが学位授与の要件である。
- (2) 博士後期課程にあつては、研究者として自立して活動し、また高度な専門業務に従事するために必要な能力とその基盤となる学識を身につけているかどうか、課程修了の基準である。
- (3) 博士前期課程にあつては、研究科の定める期間在学し、研究科が教育と研究の理念や目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数以上を修得し、課程を修了することが学位授与の要件である。課程修了に当たっては、研究科が行う修士論文の審査及び試験に合格することとする。なお、スポーツ科学実践プログラムを選択した場合、修士論文の審査及び最終試験を、特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に代えることができる。
- (4) 博士前期課程にあつては、幅広い知識に裏打ちされた専門領域における研究能力と、高度な専門性を必要とする職業を担うための優れた能力とを身につけているかどうか、課程修了の基準である。
- (5) 研究が、高い倫理性と強固な責任感をもって実施され、人類の平和と安寧に貢献できるものとなっているかも、大学院課程修了の際に考慮されるべき重要な点である。

社会人の学びの場として

本学大学院では、社会人、アスリート、大学教員など、仕事や競技を続けながら、大学院生として両立されている方が多く在籍しています。また、2022年度からは昼夜開講制も導入しました。長期履修制度やスポーツ科学実践プログラムなど、様々な方向から支援します。

昼夜開講制【博士前期課程が対象】

社会人のリカレント教育（再教育・高度化教育）の要請に応える開かれた大学院をめざし、昼夜開講制を実施しています。最短就業年数の2年間で夜間開講の科目（原則として18:00～21:10の間に開講）を受講し、修了に必要な単位を取得することができます。授業時間は下記の通りです。

授業時間	第1時限	9:00～10:30
	第2時限	10:40～12:10
	第3時限	13:00～14:30
	第4時限	14:40～16:10
	第5時限	16:20～17:50
	第6時限	18:00～19:30
	第7時限	19:40～21:10

夜間開講科目は、遠隔授業（オンライン）で開講されますので、自宅や職場で受講することが可能です。
詳細は、昼夜開講制リーフレットをご覧ください。

働きながらの学習を支援。2年の学費で3年間または4年間の履修ができる「長期履修制度」【博士前期課程が対象】

社会人で、事前に申請し、認定を受けた方は、「長期履修制度」により3年または4年まで延長し、在籍することができます。働きながらの学びをサポートする制度も充実しています。

※就業されている方が対象（非正規雇用も含）で、2年間の修業年限で教育課程履修が困難であること等の事前審査が必要です。

スポーツ科学実践プログラム【博士前期課程が対象】

スポーツ科学実践プログラムは、高度専門職業人の養成を主たる目的として、保健・体育科教育学分野およびスポーツマネジメント分野に開設しました。高度で専門的な知識・技能を身につけてから社会で活躍したいという学部生、既に社会で活躍しているが、さらにスキルアップを図りたい社会人に向けたプログラムです。

このプログラムの特徴は、2年次に「修士論文」ではなく「特定の課題に関する研究成果」を選択できることです。「特定の課題に関する研究成果」とは、事例報告、フィールドワークによる実態調査、授業実践報告などを指しますので、社会人にとっては、ご自身の仕事に絡めた内容で作成することができます。

長期履修制度と組み合わせることによって、仕事を続けながら修士（スポーツ科学）の学位を取ることができます。

[研究施設等]



スポーツ医・科学実験室

三次元磁気自動動作解析システム、地面反力計、筋電計、等速性筋力測定器、体幹筋力測定器などが完備され、スポーツ医学の実験や測定が行われます。



生理・生化学実験室

運動生理・スポーツ医学的研究を行うため、スポーツ医学実験室、生化学実験室、生理学実験室など多様な実験室が完備。



総合実験室

気温、湿度や風速が設定できる環境制御室をもつ実験室。[暑・寒環境での運動における留意点] など、さまざまな実験が行われます。



バイオメカニクス実験室

ビデオ画像をパソコンに取り込み、人の動作やスポーツ技術・戦術などを解析します。同時に地面反力やEMG、超音波画像なども測定します。



スポーツ心理学実験室

実験室・データ処理室・パッケージルーム・カウンセリングルームの4ブロックで構成。スポーツ選手の「こころと身体」の相互作用を測定・分析します。



社会調査室

スポーツ・レジャー・レクリエーション参加やスポーツ観戦などのデータ分析、プレゼンテーション資料の作成など、社会現象を調査・分析します。



大学院自習室

<その他の研究施設>

- スポーツ生理学実験室
- 試料分析室
- スポーツ栄養学実験室

[図書館・医療施設・附置施設等]



国内外約 192,000 冊の専門書、学術雑誌、電子媒体資料が充実。

和洋の体育科学・スポーツ医学科学・教育学等の専門資料を中心に教養書、スポーツ関連欧文貴重書等約 192,000 冊、専門研究に役立つ和洋雑誌約 3,360 種を所蔵。各種データベースおよび電子ジャーナルや電子ブック等も図書館ホームページから利用できます。 <http://lib.ouhs.ac.jp/>



ストレングス&コンディショニング(S&C) ルーム

スポーツ科学・医学等の最先端の研究、充実した施設、器具、機材を活用し「教育」「研究」「実践(現場)」と連携して各クラブの競技力向上の支援を行っています。



情報処理センター

パソコンを快適に利用できる環境が整備されています。今や欠かすことのできない情報処理教育・IT サービスに対応しています。



教職支援センター

模擬授業教室や集団面接室・個人面接室を備えており、教員採用試験の現役合格者を増大させることを目標としたサポート活動を行っています。



学生相談室・スポーツカウンセリングルーム

臨床心理士やスポーツメンタルトレーニング指導士の資格を持つスタッフが、さまざまな相談に応じます。より充実した学生生活、競技生活をサポートします。

社会人学生からのコメント

博士前期課程2年 出水精次 (バイオメカニクス分野)

私は、理学療法士として整形外科病院に勤務しておりますが、リハビリを行う中でバイオメカニクスに興味を持ち、大学院に進学しました。現在、三児の父親でもあり、育児や仕事をしながら学ぶことに不安がありましたが、長期履修制度を利用することにより4年間在籍することができるので、週1回の通学で自分のペースで進めることができています。

きています。

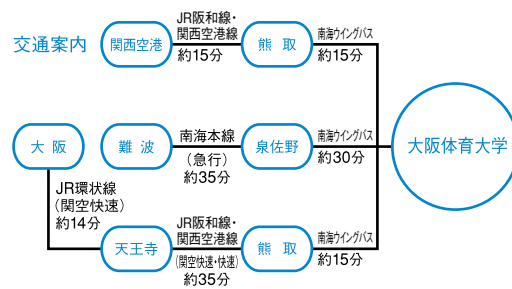
また、2022年度より、昼夜開講制が導入されたため、夜間開講は自宅や職場で遠隔授業を受けており、仕事との両立が無理なくできています。指導教員や大学院事務室の方々丁寧サポートして下さり、今は不安なく大学院生活を送れています。

博士前期課程1年 柳澤秀仁 (スポーツマネジメント分野)

私は、地域スポーツの推進と支援を行う公益法人に勤めていますが、スポーツマネジメントのスキルを上げ、キャリアアップを実現させるため、大学院に進学しました。私は本学の卒業生なので、母校の大学院への進学を考えましたが、仕事を続けながら学業と両立できるのが一番の不安材料でした。2022年度から昼夜開講制がスタートし、夜間開講の授業がオンラインで受講できること、長期履修制度が選択できるので4年間かけて学べること、さらにスポーツ科学実践プログ

ラムにより、現場で抱える課題を解決するための実践を課題研究として論文にまとめれば修士が取得できることなど、社会人に寄り添った制度が充実していることから、進学を決めました。いまでは入学して本当によかったと感じています。先生方の社会人学生への配慮もあって、社会人の方に安心して両立できる環境が整っている大学院だと思います。

ACCESS MAP



大阪体育大学大学院

〒590-0496 大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1
 TEL.(072)453-7031(直通) FAX.(072)453-7028
<http://www.ouhs.jp/>

学校法人 浪商学園

